

活動案内 2012

「子供の森」計画

in フィジー



子どもたちの「自然を愛する心」を育みながら地球緑化を進める「子供の森」計画。大雨による土砂災害や海面上昇による国土浸食など、近年自然災害が目立つようになってきたフィジーでは、山への植林、海へのマングローブ植林に加え、子どもたちへの環境教育にも力を入れています。



tiny lane ©LAYUP

2011年の活動

- 2011年は10の学校で重点的に植林活動や環境教育を実施（植林1,700本・面積1.30ha）
- 植林活動や環境教育に加え、山間地域のニーズに応え子どもたちへの有機農業や養鶏の指導も行うなど幅広い活動に取り組みました

「子供の森」計画参加学校数(1993年からの累計値)：55校

2011年までの植林実績



フィジー



- ◆人口：89万人(2010年IMF推計値 日本は127,594百万人)
- ◆面積：1万8千km²(総務省統計局資料2008年値 日本は37万8千km²)
- ◆一人当たりのGDP：3,806 US\$ (2011年9月IMF試算値 日本は45,774 US\$)
- ◆森林率：53% (2010年FAO公表値 日本は69%)
- ◆「子供の森」計画積極展開地域(丸印)：ビチレブ島



フィジーの活動を支援して下さる方を募集しています。ご支援や各地域の子どもたちの活動の様子はこちらから

➔ 「子供の森」計画情報提供サイト www.kodomonono-mori.info



ベルマークや書き損じはがきも募集しています。ベルマークは1点1円として「子供の森」計画の支援となります。事務局までお送りください。

事務局



〒168-0063 東京都杉並区和泉3-6-12

☎ (03) 3322-5161 ☎ (03) 3324-7111

E-mail oisca@oisca.org

<http://www.oisca.org/>

あの頃の海へ——マングローブ植林

マングローブの回復に
村中が一致団結

タガゲ村は海岸沿いにあり、近年の気候変動の影響から、毎年高潮の被害を受けています。強い潮流で海岸が次々と削られ、ココナツなどの木々が倒れ村の土地が浸食されています。また村の奥深くまで海水が浸入し畑に被害をもたらします。

かつての沿岸部は多くのマングローブ林が茂り、高潮などから人々の生活は守られてきました。しかし、そのマングローブ林は薪炭利用などのために大量に伐採され、今では数本しかありません。こうした状況に危機感を持ったタガゲ小学校の校長先生は、オイスカに協力を求め、村と協働してのマングローブ植林を開始しました。昨年は1200本の苗木を子どもと村人たちが一緒に植林しました。村の長老たちの話によると、マングローブ林があったところは海岸からすぐ近くでたくさんの魚が獲れていたそうです。しか

しマングローブ林が伐採されてから急激に魚が少なくなり、今ではボートを出して沖合までいかなければ魚が獲れません。村の子どもたちに、あの頃の豊かな村の海を取り戻してあげたい、村人はそんな想いで一致団結して植林活動を進めています。



苗木運びを手伝う子どもたち



潮流で根がむき出しになった倒木寸前のヤシ

“育てる”を教える

環境教育と栄養改善支援の
養鶏プロジェクト進行中です

フィジーでは2010年からヤラポー小学校で、子どもたちの植林活動に併せて、養鶏・有機農業普及活動を開始しています。これは小学校が山奥深くにあり、大雨などが降ると多くの地域が孤立してしまい、食糧を自給自足で賄う必要があることから、子どもたちへの環境教育と栄養改善支援を兼ねた取り組みとして実施しています。

11年、山間部にあるワイヤラ小学校でも養鶏の取り組みをスタートさせました。もともと狩猟民族であったらフィジー人は野菜や家畜などを“育てる”という習慣があまり浸透していません。しかし1999年から「子供の森」計画に参加し、木を“育てる”ということを学んできたワイヤラ小

学校から、鶏や野菜を“育てる”ことを子どもたちに学んでほしい、また鶏糞を利用した堆肥づくりなど、循環型の農業や自然と調和した暮らしを教えていきたい、と強い要望があり開始しました。

11年は学校へ鶏舎の建設の支援と鶏のヒナの支援を行い、子どもたちは鶏を“育てる”ことを一生懸命に学んでいます。今までもリサイクル活動に熱心に取り組んできたこの学校は、来年は鶏糞を活用した有機農業に取り組みたいと高い意欲を見せています。



学校へ支援した鶏のヒナ



子どもたちに“育てる”ことを教えるコーディネーター

TOPICS

伝え継ぐ世代

2011年10月、オイスカの創立50周年の記念式典では、オイスカの研修生OBや活動に参加者している村人たちが集まり、子どもたちとマングローブ植林を行いました。翌日、その様子は全国紙『Fiji Times』のトップで紹介されました。写真は、国立青年研修センター職員のエマシさんの愛娘、アシリケちゃん。エマシさんは1996年にオイスカの農業研修を受け、今では政府職員として次世代の育成に貢献する一方、オイスカの植林活動にも積極的に協力しています。先輩から受け継いできた活動を子どもたちにも伝え継いでいきたいと、希望に胸を膨らませています。



新聞のトップを飾るアシリケちゃん